

友愛

2021.8.16

どの学校にも、よく使われる言葉、その学校を象徴するような言葉があると思う。その言葉は、校歌にある場合が多い。野田中学校では、それは「友愛」となる。

もえたつみどり 大杉と いま花ひらく 桜こそ 希望あふれる 学びやに  
雄々しく進む わが姿 ああ 友愛の 手をとって 仰げ吾妻がきょうも呼ぶ

上記の校歌1番に出てくる「友愛」である。友愛とは、兄弟姉妹間の愛、友人間の愛、友情などを意味する。また、フランス共和国語には、有名な「自由、平等、友愛（博愛）」がある。

学校で考えれば、友人間の愛、友情となろうか。「手をとって」とあるのは、友達同士、友人同士が協力してと捉えるべきだろう。すなわち、協働ということになろうか。

学校などの集団や組織には、シンボリックな言葉があると、その集団の特徴を表し、ベクトルが同じ方向を向いてまとまりやすくなる。スローガンと考えてもよい。

例えば、本校の2年生で言えば、「誰かのためにがんばる生徒になろう！」となる。これは、毎週発行される「第2学年通信『かたばみ』」のタイトル名のすぐ隣に書かれてある言葉である。ということは、毎週、生徒と保護者へのメッセージとして、確実に伝えられていることになる。

4月に、初めてこのスローガンを目にしたときに、「いいなあ」と思ったことを今でも覚えている。ここには、学年主任の先生の思いが込められている。この学年主任は、学級担任も務めている。毎朝、生徒が登校してくる時間に合わせて、昇降口前に立ち、一人一人の生徒に声をかけている。そして、7:50頃になると、校舎に戻っていく。

7:50までは学年主任として昇降口前に、7:50からは学級担任として教室に行っているのである。これを毎日続けている。頭が下がる思いである。このような方が、2学年の生徒たちに伝えたいメッセージが「誰かのためにがんばる生徒になろう」なのである。

人は、誰かのためになれば、がんばることができるものである。学校で生活していれば、その誰かはというと、まずは友達であったり、クラスの仲間であったり、上級生、あるいは下級生となろう。そこから、家族、地域の人々、そして不特定多数の共にこの世の中で生活している人々となる。

学校は、ミニ社会である。社会で生活するための準備、予行練習をしている場である。身近な友達のことを思い、大切にできなければ、社会人となり、世の中に貢献できる人材になるのはむずかしいのではなからうか。

こう考えてくると、本校の象徴とも言える「友愛」には、深い意味があり、とても大切な言葉、大事にしたい言葉、お互いを結び付ける言葉に思えてくる。何よりも、この言葉を見ていると、優しい気持ちになれる。優しい穏やかな柔らかな雰囲気を持った素敵な言葉である。